



## 英米文学科同窓会 第17回総会記念講演

### 「英語イディオムのおもしろさ」

講師 秋元実治先生（青山学院大学名誉教授）



青山学院大学文学部英米文学科卒業（1965）。東京大学大学院人文科学研究科博士課程満期退学。青山学院大学文学部講師、助教授、教授を経て、現在青山学院大学名誉教授。文学博士。著書 *A Study of Verbo-Nominal Structures in English* (Shinozaki Shorin, 1989)、『文法化とイディオム化』（ひつじ書房、2002）。共編著・共著 *Collocational and Idiomatic Aspects of Composite Predicates in the History of English* (Amsterdam: John Benjamins, 1999)、『文法化—研究と課題』（英潮社、2001）、『文法化—新たな展開』（英潮社、2005）、『Comment Clause の史的研究—その機能と発達』（英潮社フェニックス、2010）、編著『文法化と構文化』（ひつじ書房、2013）、編著『日英語の文法化と構文化』（ひつじ書房、2015）、『シャーロックホームズの英語』（2017、開拓社）、『探偵小説の英語』（2020、開拓社）、『イギリス哲学者の英語』（2023、開拓社）、編著『近代英語における文法化・構文的变化』（2023、開拓社）

kick the bucket ≠ 「バケツを蹴る」??

英語を学ぶ際、イディオムは暗記するものだと思っている人が多いと思います。実際、例えば、kick the bucket はなぜ、「死ぬ」という意味を持つのかは、この語の連鎖からは分かりません。しかしながら、この種のイディオムだけではなく、多くはその意味解釈が可能であり、さらに興味深いことには、イディオムには、バリエーションが存在しており、このことが文を興味深いものにさせていることです。例をあげてみましょう。次の例は Sherlock Holmes の探偵小説の中でも、有名な 'The Red Headed League' (『赤毛組合』) の一文です。

“*My face lengthened at this, Mr. Holmes, for I thought I was not to have the vacancy after all...*”

この例は本来のイディオム 'a long face' (不機嫌な顔) の 'long' を動詞のように使った例で、顔の表情をよく表しています。

今回の話では、このようにイディオムのバリエーションは会話を面白くするだけでなく、併せてなぜイディオムが構成されていくのかの過程についても考えてみたいと思います。(講師)

日時: 2026年6月6日(土) 15:10~16:10 (総会終了後)

場所: 校友会 A 室 (アイビーホール2階)

開催形式: 対面(基本) + Zoom meeting によるハイブリッド形式